# 実測値公開!ランサムウェア対策で Amazon S3 ヘデータ入れてみた!

相合谷 修平 Veeam Software シニア・システムズ・エンジニア



## 自己紹介





相合谷 修平 (そごや しゅうへい) Veeam Software シニア・システムズ・エンジニア

大手SIer、外資系ITベンダーにて、20年以上バックアップ、 ストレージを中心にITインフラのプリセールスエンジニア/ 構築を経験。

Veeam Softwareでは、現在パートナーを支援する SEとしてクラウドデータマネジメントの推進に従事。 単なるデータ保護に留まらない、クラウド時代に合った 新たなバックアップソフトのあり方をわかりやすくお伝えします。

# アジェンダ



● Veeamのランサムウェア対策を5つご紹介

● VeeamとAWSでこんなこと出来ます!

◆ Amazon S3へバックアップしてみたので実測値公開!

# 拡大するランサムウェアの被害

支払われた身代金の平均額:17万ドル

消失したデータの平均:35%

攻撃の被害総額:185万ドル

脅迫そのものは増加傾向

· 2020年: 3%

· 2021年: 7%



 $\underline{https://secure2.sophos.com/en-us/medialibrary/pdfs/whitepaper/sophos-state-of-ransomware-2021-wp.pdf}$ 

# ランサムウェアは攻撃側が圧倒的に有利。。

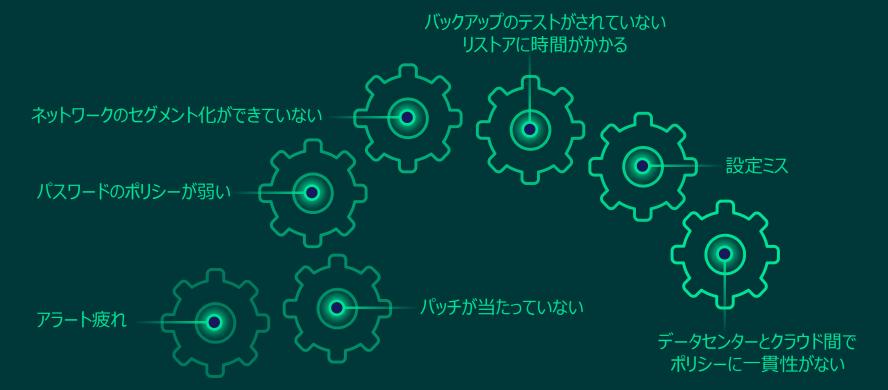
攻撃側は侵入しようとする試みを 無限に実行でき、しかも一度だけ 命中すればよい

守り側は1回で攻撃をブロックせねばならず、しかも必ず毎回命中させなければならない



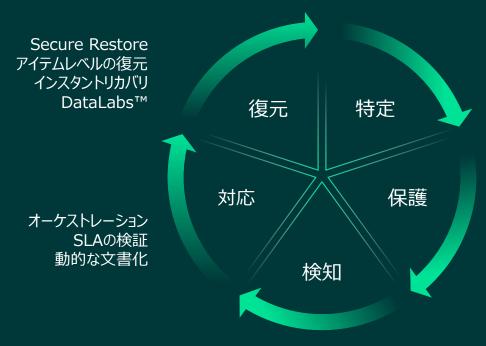
# ランサムウェアが有効となる要因

人、プロセス、テクノロジー



# うつの セキュリティ ベストプラクティス

# <1> バックアップ は最後の砦



データのタグ付け データ局所性 ビジネスビュー

3-2-1-1-0ルール 書き換え不能なストレージ SureBackup®、SureReplica

監視とアラート、データ統合API

## <2>

# 3-2-1-1-0ルールの徹底



データのコピーを 3つ作成



2種類のメディアに保存



1つのコピーを オフサイトに保存

## **VEEAM**



1つは オフラインで物理的に 隔離するか 書き換え不能に



バックアップの自動テスト と復元力の検証後に エラーなし

# <3>

# Amazon S3オブジェクトロックの利用



保持しているデータを WORMで保護することで 上書きや削除を防止

# <4>

# データを別のアカウントに分離



生産

# 保護



# <5> アクセス権限の付与は最低限に



タスクを行うのに必要な権限のみ付与

最初は最低限の権限を付与 必要に応じて追加

ログイン情報は定期的に変更 不要なログイン情報は削除

# その他



多要素認証



ロールベースのアクセス制御

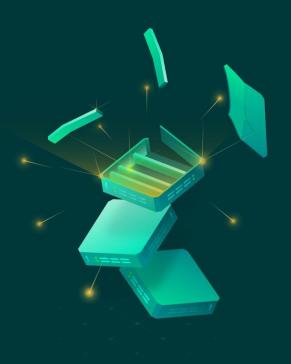


AWS Key Management Service

# データ保護の悩み

# レガシーバックアップ

モダンアプリではきちんと機能しない クラウド全体に拡張することができない サイバー脅威に対抗できない



# プラットフォーム ネイティブ

1つのプラットフォームやクラウドに制限される限定的で機能が不足していることが多いユーザー側でデータの管理ができない



## どんなクラウドでもデータを保持

No.1 ハイブリッド・クラウド・バックアップ



クラウドデータの保護、

クラウドネイティブバックアップ

クラウドモビリティ

SaaSバックアップ

Kubernetesバックアップ

データの保護とセキュリティに クラウドを活用

バックアップとアーカイブ

ディザスタリカバリ

ランサムウェア対策

移行と最新化











AWS

オンプレミス

K8s

M365

Salesforce

# Veeam & AWS

#### AWSストレージ

Amazon EBS Amazon S3 Standard Standard-IA

Glacier Flexible Retrieval Glacier Deep Archive

#### AWSインフラストラクチャ

Amazon EC2 Amazon EBS Amazon RDS

Amazon EFS

Amazon EKS Amazon VPC

#### プラットフォームプレイ

AWS Outposts VMware Cloud on AWS ハイブリッドクラウド



#### セキュリティ統合

AWS IAM AWS KMS Amazon S3オブジェクトロック Amazon CloudWatch

#### サービス統合

AWS Snowball Edge AWS Storage Gateway Amazon Kinesis

**AWS MMS** 

ELB

Amazon SQS

Amazon SNS

AWS SSM

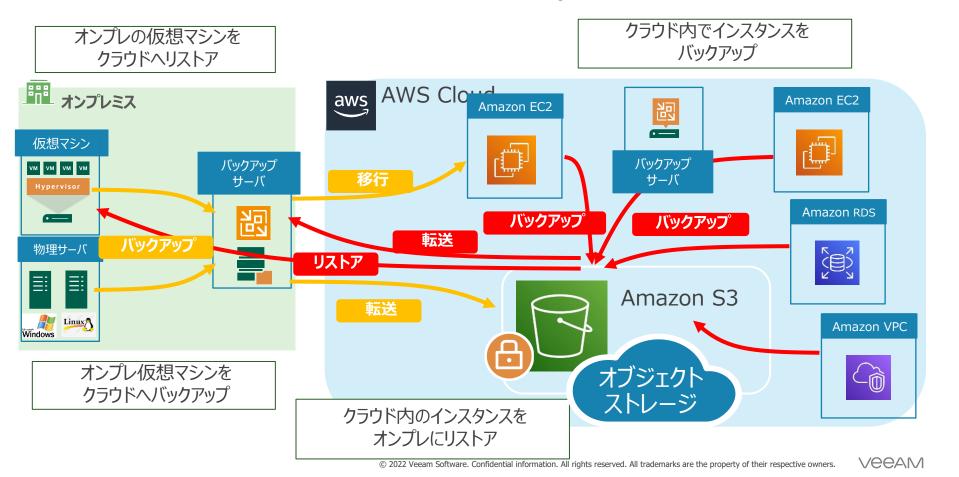
AWS Service Quotas

#### チャネル

AWS Marketplace 従来のチャネル

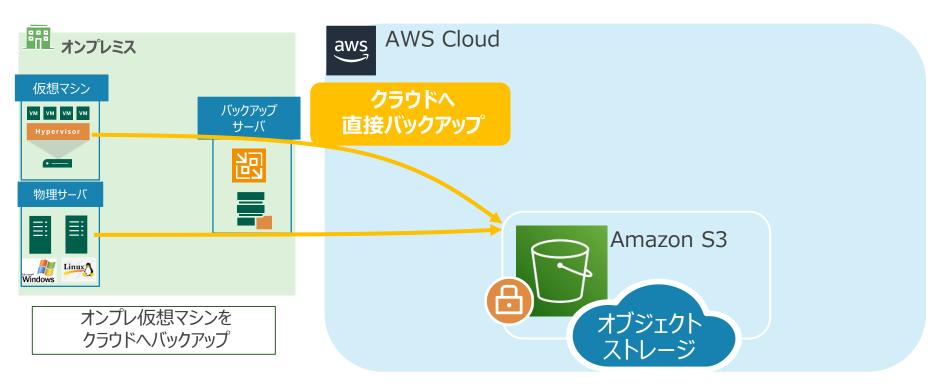
## AWSとVeeamでこんなこと出来ます!

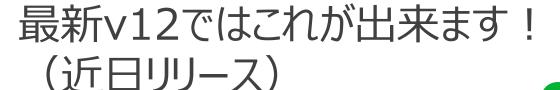




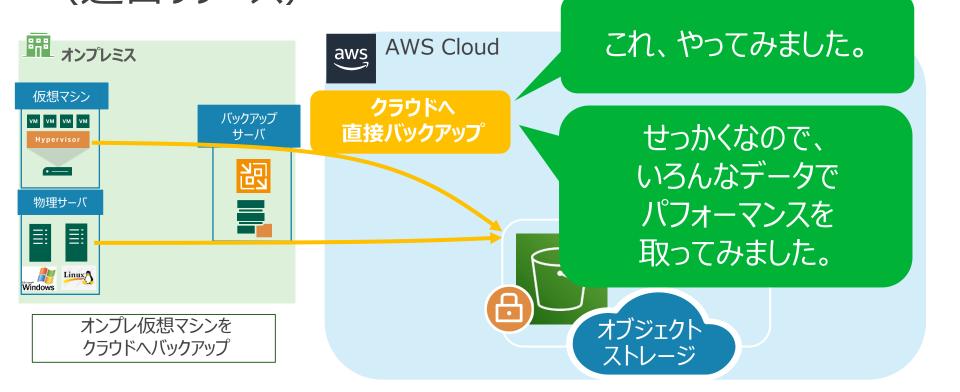
# 最新v12ではこれが出来ます! (近日リリース)











## いったい、Amazon S3へのバックアップって どれくらいの速度が出るのか。 それがわからないと設計も何もできない!



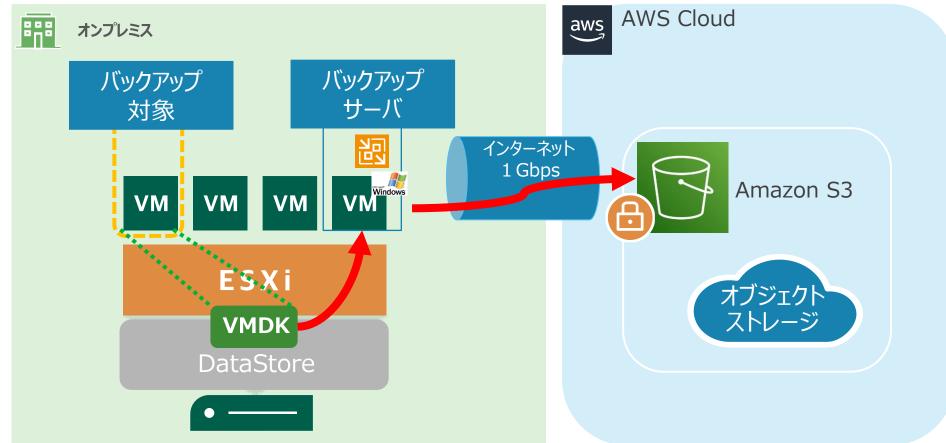
- 検証1 データの種類によって変わる? ファイルサイズ / バイナリ / 動画
- ◆ 検証2 データの容量毎に何時間くらいかかるの? OSのみ / 100GB / 500GB
- 検証3 インターネット回線速度はどのくらい影響するの? 100Mbps / 1Gbps
- 検証4 Amazon S3のリージョン毎にどれくらい違うの?東京/大阪/アジア/ヨーロッパ
- 検証5 Amazon S3のストレージクラス毎にどれくらい違うの? Standard/低頻度/1ゾーン
- 検証6 ランサムウェア対策したら遅くなったりする?
- 検証7 Amazon S3からリストアしてみた。
- 検証8 HodAddとネットワーク経由でどれくらい違うの?

## 出来る範囲で検証してみました!!

あくまで参考ですが、

## 検証環境





## 検証に関して

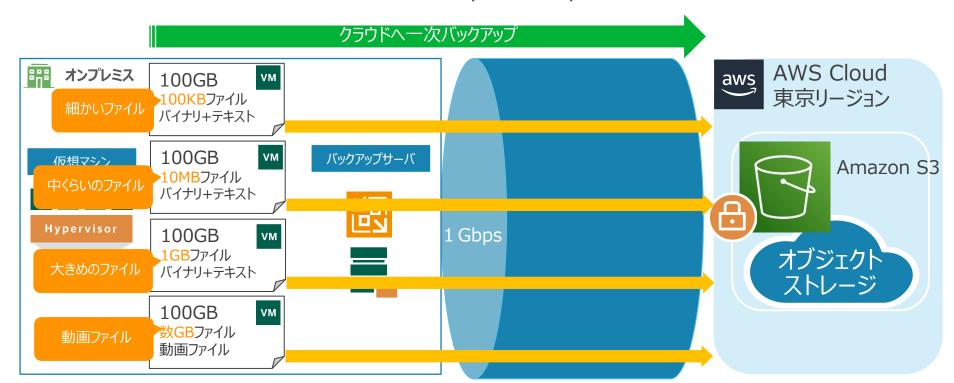


- 今回はわかりやすくするため、フルバックアップでのパフォーマンスを公開していますが、 実運用においては日々増分バックアップのため、平均速度は低下します。
- veeamは要件、環境に応じて様々な構成が組めますが、今回はバックアップサーバ1台でのhotaddでのバックアップをベースとします。
- バックアップ対象の仮想マシンは電源オン。Application-aware設定はオン。
- 計測時のサーバ、ネットワークの負荷状況で大きく結果が異なる可能性もありますのであくまで参考としてください。
- 詳細にご興味ある方は別途、ご連絡お待ちしております。



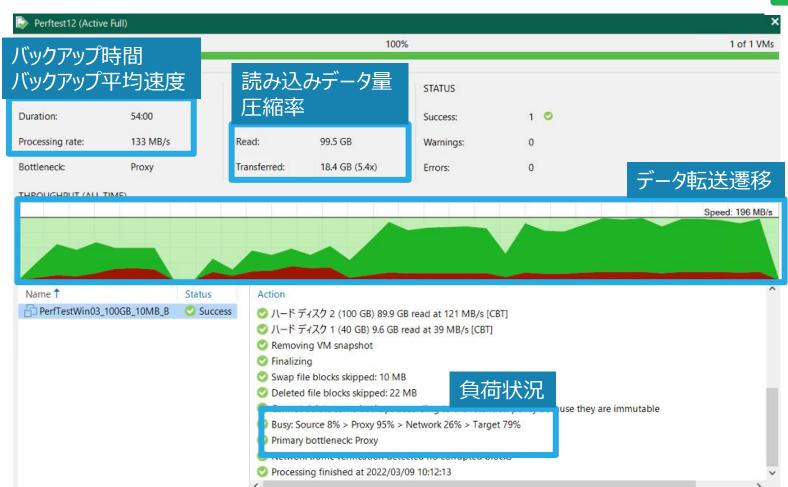
検証1

データの種類によって変わる? ファイルサイズ / バイナリ / 動画





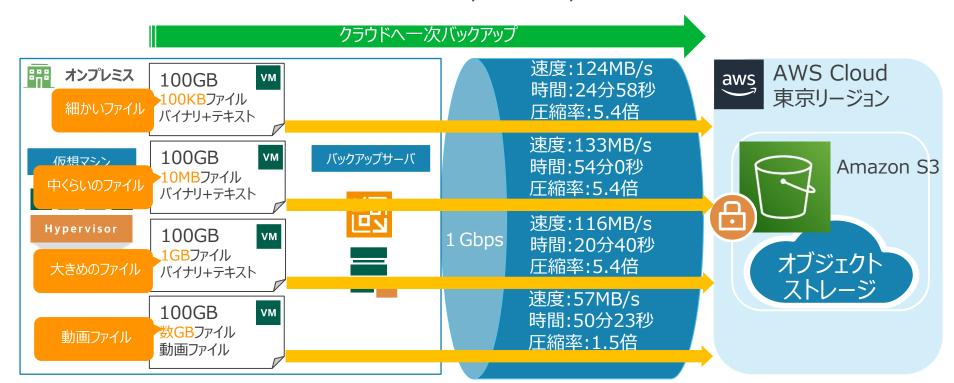
VEEAM





#### 検証1

データの種類によって変わる? ファイルサイズ / バイナリ / 動画





#### 考察1

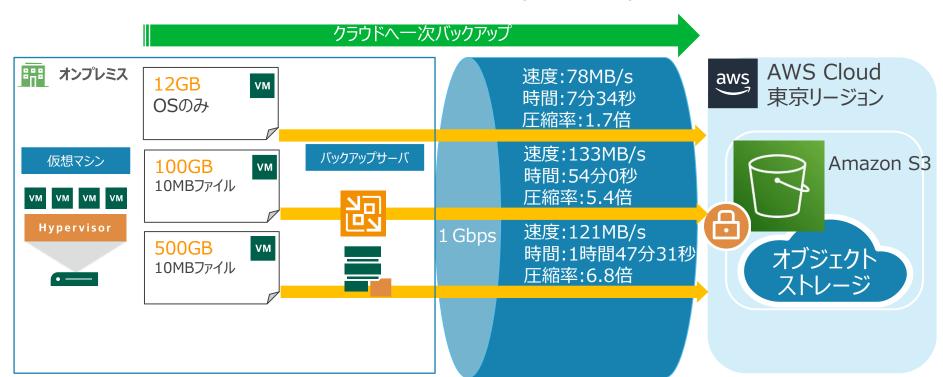
データの種類によって変わる?ファイルサイズ?DB?バイナリ?テキスト?

- ✓ ファイルサイズはバックアップ速度にあまり影響しない→ イメージバックアップのため、ファイル自体を読み込まないため
- ✓ 動画は圧縮率が悪い
- ✓ 圧縮が効けば効くほど<mark>転送効率</mark>が良くなりバックアップ速度アップ



#### 検証2

データの容量毎に何時間くらいかかるの? OSのみ / 100GB / 500GB





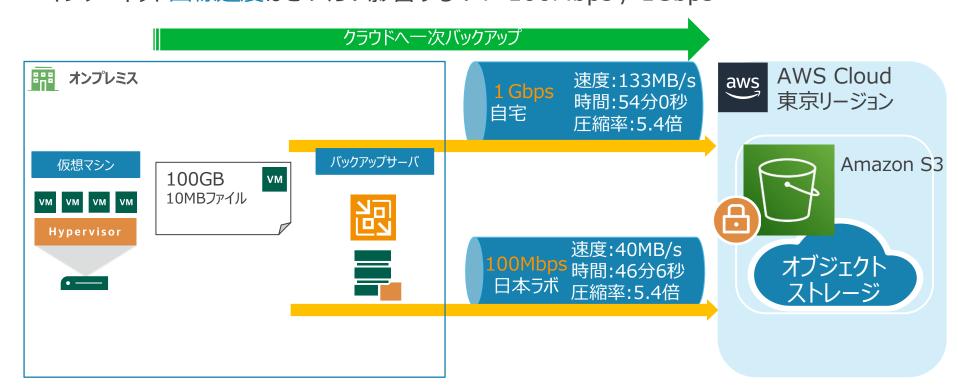
#### 考察2

データの容量毎に何時間くらいかかるの? OSのみ / 100GB / 500GB

- ✓ 容量については、バックアップ速度にはあまり影響がないと思われる。
- ✓ OS領域の圧縮率は低いため、バックアップ速度も遅い
- ✓ 単純に容量が大きいとバックアップ時間が長くなる



検証 3 インターネット回線速度はどのくらい影響するの ? 100Mbps / 1Gbps





#### 考察3

インターネット回線速度はどのくらい影響するの? 100Mbps / 1Gbps

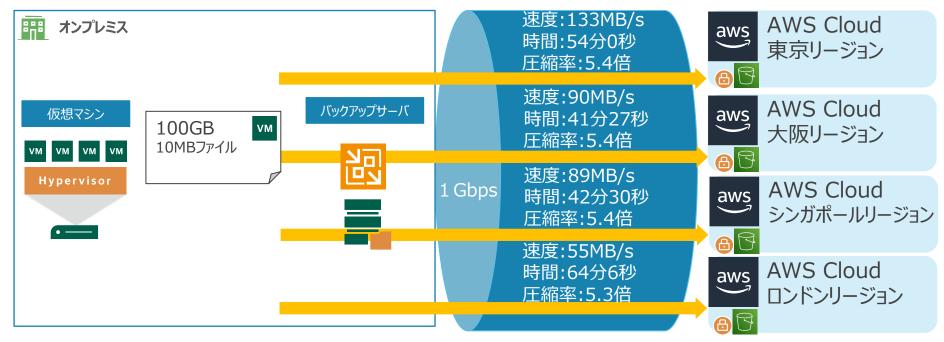
✓ Amazon S3への転送速度はインターネット回線に大きく依存する

✓ Veeamでは帯域制御も可能なため日中は低速、 夜間に帯域を増やすなども可能



#### 検証4

Amazon S3のリージョン毎にどれくらい違うの? 東京/大阪/アジア/ヨーロッパ





#### 考察4

Amazon S3のリージョン毎にどれくらい違うの? 東京/大阪/アジア/ヨーロッパ

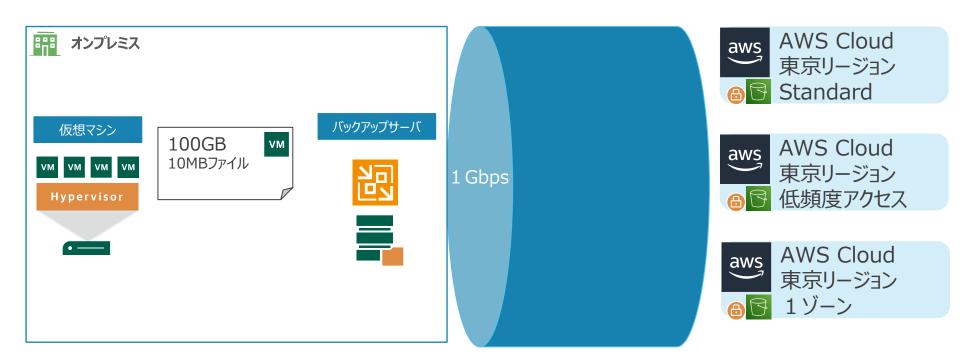
✓ リージョンへの距離に応じて速度が変化

✓ ヨーロッパリージョンへのバックアップも出来なくはない



#### 検証5

Amazon S3のストレージクラス毎にどれくらい違うの? Standard/低頻度/1ゾーン



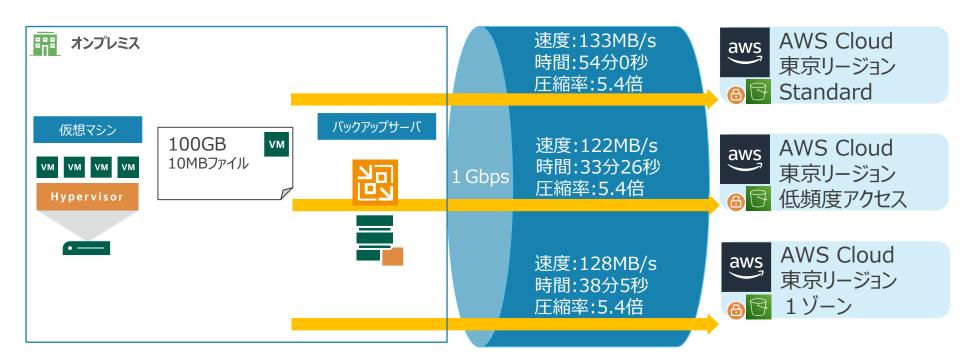


#### ● ストレージクラス比較 ストレージクラス 特徴 Veeam対応状況 コスト バックアップ用途、災害対策用途なら Amazon S3 Standard 頻繁にアクセス 0.023-0.025US Amazon S3 Intelligent -アクセス頻度で 0.002-0.025US 自動コスト削減 Tiering Amazon S3 Standard ただし、低頻度ストレージには 低頻度アクセス 最小ストレージ期間というルールがあるため、 Amazon S3 1ゾーン ご注意ください。 低頻度アクセス Amazon S3 Glacier 取得時間数時間の 0.005USD/GB ※v11以降 長期アーカイブ Amazon S3 Glacier Deep 取得時間12時間以上の 0.002USD/GB ※v11以降 長期アーカイブ **Archive**



#### 検証5

Amazon S3のストレージクラス毎にどれくらい違うの? Standard/低頻度/1ゾーン





#### 考察5

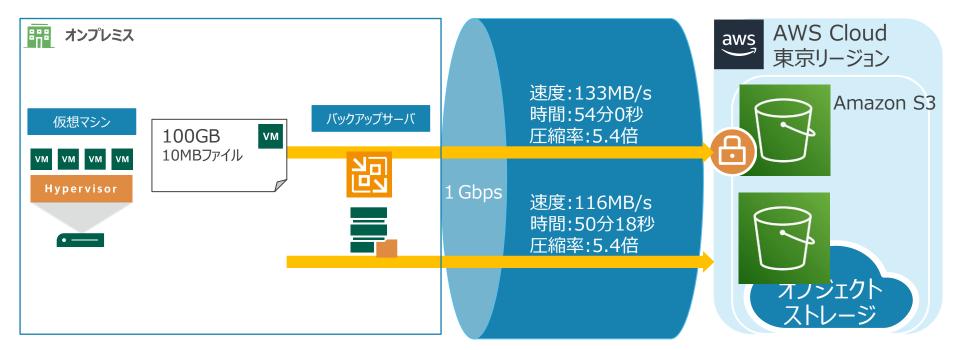
Amazon S3のストレージクラス毎にどれくらい違うの? Standard/低頻度/1ゾーン

- ✓「Standard」と「低頻度系」では速度にほぼ同じ
- ✓ 「Standard 低頻度アクセス」と「1ゾーン 低頻度アクセス」でも速度は同じ
- ✓ 「低頻度系」でも速度は問題なし



#### 検証6

ランサムウェア対策したら遅くなったりする?





#### 考察6

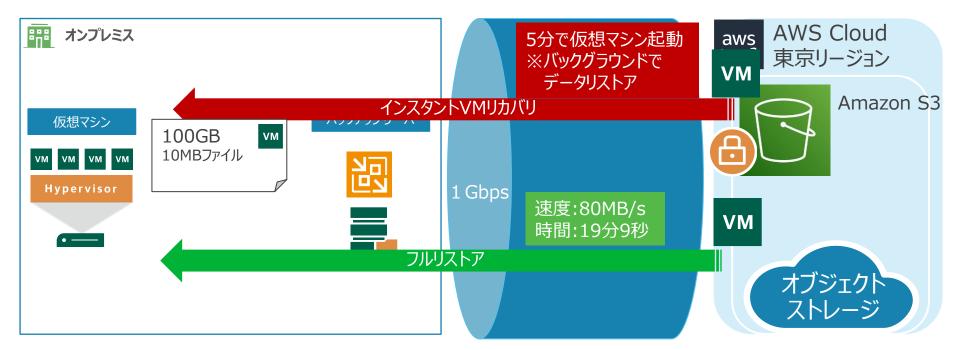
ランサムウェア対策したら遅くなったりする?

- ✓ ランサムウェア対策としてAmazon S3のオブジェクトロックは バックアップ速度にはほぼ影響がない
  - → 圧縮や暗号化のようにデータの読み込みをして データ自体を加工するわけではないため



#### 検証7

Amazon S3からリストアしてみた。





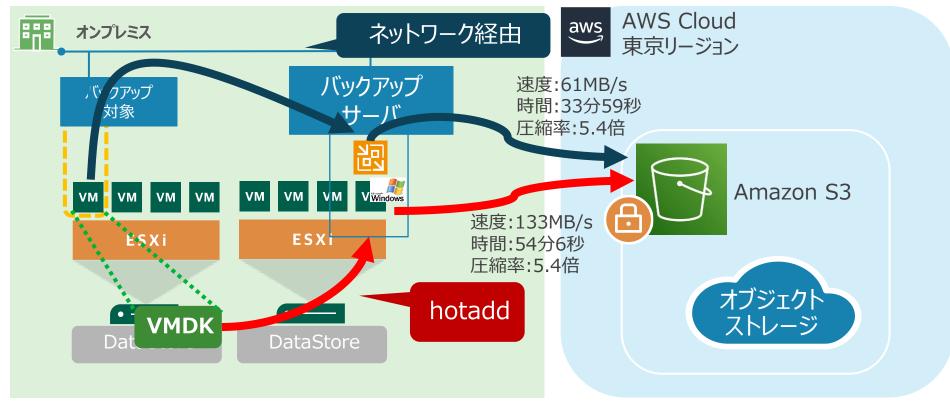
#### 考察7

Amazon S3からリストアしてみた。

- ✓ インスタントVMリカバリだと5分で仮想マシンのリカバリが可能
- ✓ フルリストアの場合でも100GBの仮想マシンを20分ほどでリストア
- ✓ オンプレミスと比較しても充分運用で使えるレベル



HodAddとネットワーク経由でどれくらい違うの?





#### 考察8

HodAddとネットワーク経由でどれくらい違うの?

- ✓ HotAddとネットワーク経由でかなりの差が見られた
- ✓ これは圧縮する場所が異なることが原因と思われる
- ✓ ネットワーク経由の場合は、ネットワークを通ってバックアップサーバに 転送されてから圧縮されるため、転送効率が悪く時間がかかる

#### 結果のまとめ

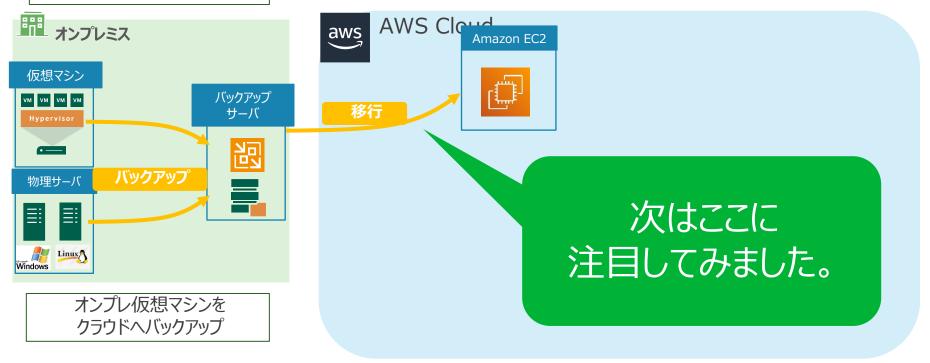


- バックアップパフォーマンスに影響しないもの
  - ファイルサイズ
  - バックアップ対象の容量
  - ストレージクラス
  - ランサムウェア対策 (オブジェクトロック)
- バックアップパフォーマンスに影響するもの
  - 圧縮が効くかどうか
  - インターネット回線速度
  - リージョン
- インスタントVMリカバリだと5分で仮想マシンのリカバリが可能
- フルリストアの場合でも100GBの仮想マシンを20分ほどでリストア
- HotAddはネットワーク経由よりかなり速い

## AWSとVeeamで出来ること!



オンプレの仮想マシンを クラウドヘリストア

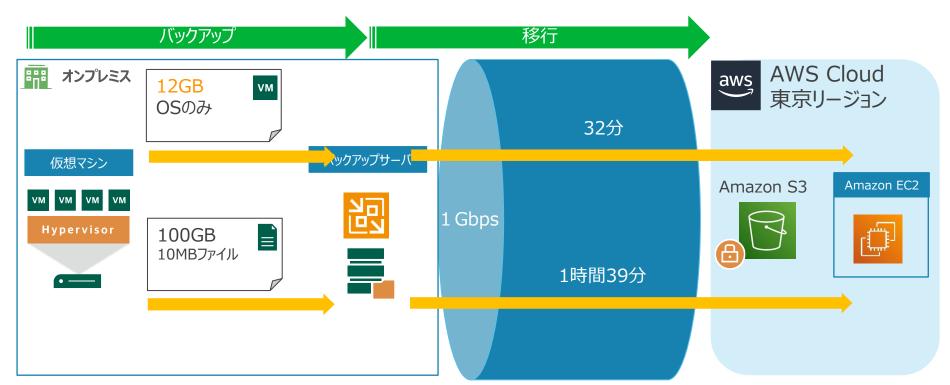


#### Amazon EC2への移行ってどれくらいの時間がかかるのか。



#### 検証9

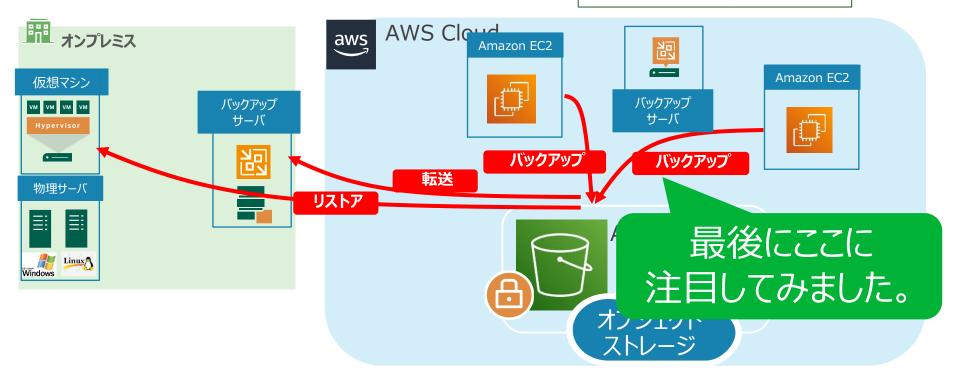
100GBの仮想マシンのAWSへの移行に何時間くらいかかるの?



## AWSとVeeamで出来ること!



クラウド内でインスタンスを バックアップ



### Amazon EC2などのバックアップもできます!



	項目	Veeam Backup for AWS
バックアップ	対象	Amazon EC2 / Amazon EBS / Amazon RDS ※Amazon Auroraを除く / Amazon VPC
	バックアップの配置	AWSのSnapshot 任意のAmazon S3へのバックアップが実行可能 (長期・短期)
	アプリケーションの整合性	VSSに加えて任意のスクリプトによる制御
	バックアップデータの圧縮	有り
リストア	元の場所へのインプレースリストア	可(元ボリュームの上書き)
	ボリュームレベルリストア	インスタンスレベルのバックアップから任意のボリュームのリスト アが可能
	ファイルレベルリストア	特に追加設定不要。専用のブラウザ経由でのリストアを提供

## 本日のまとめ

最後にアンケートへの ご回答 宜しくお願い致します



Amazon S3へのバックアップでは、圧縮率、インターネット回線、リージョンなどの影響を受けるが、オンプレと比べても、充分運用に乗るくらいのパフォーマンスは期待できる。

**√** 

リストアも1時間以内で可能なため、 ランサムウェア対策や災害対策としても 充分検討する価値がある。

# Thank you!

相合谷 修平

Veeam Software シニア・システムズ・エンジニア

